

『窓際のトットちゃん』中国語訳の特徴：中国大陸の諸訳本における相違点を中心に

その他のタイトル	Language features of the Chinese Versions of Toto-Chan : The Little Girl at the Window With a focus on the differences in the Chinese Versions of the Chinese mainland
著者	屈 豎萌
雑誌名	文化交渉：東アジア文化研究科院生論集： journal of the Graduate School of East Asian Cultures
巻	10
ページ	101-117
発行年	2020-11-30
URL	http://doi.org/10.32286/00023398

『窓際のトットちゃん』中国語訳の特徴

— 中国大陸の諸訳本における相違点を中心に —

屈 豎 萌

Language features of the Chinese Versions of
Toto-Chan: The Little Girl at the Window

With a focus on the differences in the Chinese Versions of the Chinese mainland

QU Shumeng

Abstract

Toto-Chan: The Little Girl at the Window was written by Tetsuko Kuroyanagi, published in March 1981 in Japan by Kodansha, and has since gained wide popularity around the world. It has been translated in 35 languages, and the Chinese versions have since gone through 20 different adaptations, making it the largest number of the translations. Regarding the research on the translated texts, some research results have already been produced in Japan, Korea, Indonesia and Taiwan, but it cannot be said that the research on the translated texts of the Chinese mainland is sufficient. Therefore, in this paper, after introducing the Japanese original and the Chinese mainland versions, we mainly examined a number of text-specific traits, such as culture-loaded words, onomatopoeia mimetic words, the rhetoric of metaphors and personification, deleting and mispronunciation¹⁾, then analyzed the language features of the Chinese versions.

Keywords: 窓ぎわのトットちゃん 訳本 中国大陸 言語特徴

1) 子供が誤って発音した言葉に対して、本稿では誤音 (mispronunciation) と呼ぶ。

はじめに

『窓際のトットちゃん』は黒柳徹子によって書かれた。1981年3月に講談社より発売され、800万部²⁾というベストセラーを達成し、現在でもよく読まれ、長年にわたり幅広く流行している。林立萍(2005)は、「『窓際のトットちゃん』は話し言葉に近く、わかりやすい文章で、5歳から103歳までの日本人だけに限らず、英語版を始め、たくさんの言語に訳され、世界の多くの人々に愛読されている。このような性格を帯びている作品は、異言語間の対照研究にとって好都合の資料である」と述べている³⁾。また田島毓堂(2004)⁴⁾は、『窓際のトットちゃん』を対象に、比較語彙研究のデータを作った。その理由は三つ挙げられ、内容が分かりやすいこと、当時の教育界に与えた影響が大きいこと、さらに多くの言語に翻訳されたことである。

『窓際のトットちゃん』は出版されて以来、35ヶ国の言語で翻訳され、その中で中国語版が最も多く、その数は20種類にも上る。先行研究では、日本、韓国、インドネシア、台湾ではすでにある程度研究成果が出された。田島毓堂は原作に基づき、語彙分類のシリーズ研究を行い、2000年から現在まで数多くの論文を発表した⁵⁾。インドネシア語の訳本、韓国語の訳本、中国語訳の研究は主に田島毓堂の語彙分類に基づき、進められている。

中国語訳本の研究は大陸の中国語訳本の研究と台湾の中国語訳本の研究に分けることができる。台湾の訳本の研究は、林玉恵⁶⁾、林立萍⁷⁾、鐘季儒⁸⁾が『窓際のトットちゃん』の台湾の中国語訳を中心としてシリーズの研究を行い、各訳本の語彙データの作成がある程度進められている。また、『窓際のトットちゃん』の原作にしても、訳本にしても、研究者は文章の一々の語にコー

2) 孫雅甜「800万人が理想の教育に感動！—なぜ読まれる『窓際のトットちゃん』」(『人民中国』、巻744、2015年)、62-65頁。

3) 林立萍「中国語『窓際のトットちゃん』語彙データについて—第1章から第10章まで一例に—」(『台大日本語文研究』、第10期、2005年)、85-106頁。

4) 田島毓堂「『窓際のトットちゃん』章別語彙の比較研究」(『国際シンポジウム比較語彙研究V』、語彙研究会、2004年)、87-112頁。

5) 代表的な論文は以下にある。「『窓ぎわのトットちゃん(一部)語彙表』コード付き」(『比較語彙研究の試み5』、名古屋大学国際開発研究科、2000年)、267-327頁。「『窓ぎわのトットちゃん』章別語彙の比較研究」(『国際シンポジウム比較語彙研究V』、語彙研究会、2004年)、87-112頁。「『窓ぎわのトットちゃん』語彙データ」(『名古屋大学文学部研究論集文学50』、2004年)、37-50頁。「『窓ぎわのトットちゃん』語彙2—基幹語彙と基調語彙—」(『国際シンポジウム比較語彙研究VI』、2004年)、75-90頁など。

6) 林玉恵「中国語のコード付けの基準と手順—中国語の『窓際のトットちゃん』を例として—」(『国際シンポジウム比較語彙研究X』、語彙研究会、2006年)、29-40頁。

7) 林立萍「中国語訳『窓際のトットちゃん』語彙データの構築について—その2 単語分析についての諸問題—」(『国際シンポジウム比較語彙研究VII』、語彙研究会、2004年)、23-34頁。

8) 鐘季儒「中国語『窓際のトットちゃん』語彙データの構築について—その4 訳本の諸問題—」(『国際シンポジウム比較語彙研究VII』、語彙研究会、2004年)、55-63頁。

ド付けを施した。章別語彙の意味分野別構造を通じて単語コードおよび語素コードを使用し、詳しく語彙を分類した。この語彙データの構築、コード付け、語彙分類を基礎とし、日中の語彙の類似点と相違点を検討することも可能と指摘した。

一方、中国大陸における中国語の訳本に関する研究は多いとは言えない。大陸の中国語訳本は7つあり、それぞれ1983年版の未申訳、朱濂訳、陳喜儒・徐前訳、王克智訳および2003年、2011年、2018年の趙玉皎訳である⁹⁾。原作の教育観を切り口として行われた研究が多く見られるが、翻訳対比に関する研究は決して多いとは言えない。管見の限り修士論文二篇があり、多版本の対比から、適切な訳し方、および児童文学としての翻訳の策略の考察が主である。また、中国大陸の全ての版本を対象として考察する研究もまだ十分であるとは言えず、訳本に対する紹介も詳しくない。全ての版本を対象にするのではなく、一つ、あるいは二つを抽出し、考察することが多い。中国大陸の訳本に関しては、まだ調査、検討を加える余地があると考えられる。

筆者は上述した問題点に基づき、中国大陸版でまだ考察されていないところから着手したい。日本語原作と中国大陸版を中心として、訳文の良し悪しを評価することを目的とするのではなく、中国大陸における『窓際のトットちゃん』の翻訳状況を明らかにしたい。そこで、各訳本を紹介した上で、主に文化記号、擬音擬態語、比喩、擬人の修飾方法を中心に、誤音や訳文の削除を検討し、各訳本の訳語の特徴を分析したい。

一 『窓際のトットちゃん』に関して

著者の黒柳徹子（1933年）は東京・乃木坂に生まれた。トモエ学園から香蘭女学校を経て東京音楽大学声楽科を卒業し、NHK放送劇団に入団し、NHK専属のテレビ女優第1号として活躍した。その後、文学座研究所、ニューヨークのMARY TARCAI（メリー・ターサイ）演劇学校で勉強した。アメリカのテレビ番組、ジョニー・カーソンの『ザ・トゥナイト・ショー』など、多くのアメリカのテレビ番組に出演した。黒柳徹子は今も女優、タレント、声優、司会者、エッセイスト、ユニセフ親善大使、平和運動家として活躍している。

『窓際のトットちゃん』は黒柳徹子の自伝的物語であり、総ページ数は284ページである。本の中にいわさきちひろの絵22枚を使い、また著者本人の最初の小学校の写真と1981年の写真も加えた。小説本文の61章とあとがきから構成され、一つ一つの独立したエピソードを通じてトットちゃんの生活を記している。毎章に小テーマをつけ、それぞれトットちゃんの小学校時代に実際にあったことを描写した。

9) 訳本の詳細な内容は後文で紹介し、ここでは省略する。

二 中国大陸の訳本

各訳本の訳者、書名、出版時間、出版社を表に示した。中国大陸で出版されたのは未申訳、朱濂訳、陳喜儒・徐前訳、王克智訳、趙玉皎訳である（以下未訳、朱訳、陳訳、王訳、趙訳と略する）。

表 1

版本	作者	書名	出版年	出版社
原作	黒柳徹子	『窓ぎわのトットちゃん』	1981	講談社
1	未申	『窓旁の小豆豆』	1983.5	中国展望出版社
2	朱濂	『窗边的小姑娘』	1983.7	湖南少年儿童出版社
3	陳喜儒・徐前	『窗边的阿彻』	1983.9	少年儿童出版社
4	王克智	『窗旁的小桃桃』	1983.10	遼寧少年儿童出版社
5	趙玉皎	『窗边的小豆豆』	2003	海南出版社
6	趙玉皎	『窗边的小豆豆』	2011	海南出版社
7	趙玉皎	『窗边的小豆豆』	2018	海南出版社

表 1 に示したように、1983年の一年間に四つの訳本が次々に出版された。その四つが出版され、20年後に2003年版が出てきた。2003年版は21世紀の初本とも言える。2020年まで、趙訳は三回改訂され、重版された。現在では市場に流通している趙訳は三つの版本がある（2003年、2011年、2018年）。本稿では1980年代の四つと2003年版の趙訳を利用して比較研究を行う。

2.1 書名の翻訳

黒柳は題名の『窓ぎわのトットちゃん』に関して、本文とあとがきに詳しく説明した。原作の15章の「名前のこと」によると、トットちゃんの本当の名前は「徹子」という。なぜかというのと、生まれてくるときに、トットちゃんの親戚およびパパとママの友達、みんなが必ず男の子と信じていた。トットちゃんのパパとママもそれを信用して、「徹」と決めたが、女の子だった。少し困ったけど、考えてから「子」をつけて、「徹子」になった。周りの人が「徹子ちゃん」と読んだけど、いつも「トットちゃん」と聞こえた。

また「窓ぎわ」について、原作のあとがきによると、著者は本を書きはじめた頃に「窓際族」という言葉が流行っていたと言及した。自分は初めの小学校の生活を思い出して、いつも窓ぎわに行った、疎外感を感じた。そんなわけで「窓ぎわ」を使った。従って、原作の「窓ぎわ」には二つの意味があると言える。一つは言葉本来の意味、窓の近く・窓のそばであり、もう一つはマイナスの意味を含み、重視されない・疎外感である。

表 1 のように、諸訳本と原作の「窓ぎわ」の翻訳は大きな相違点が無い。未訳と王訳は「窗

「窓」に訳され、朱訳、陳訳と趙訳は「窓辺」に訳された。「窓旁」と「窓辺」は中国語では類義語と呼ばれ、言い換えれば、「窓ぎわ」に対する訳語はほぼ同じと言える。2003年版以降の趙訳は「窓辺」に定着した。また、上述したように黒柳はあとがきの部分で「窓ぎわ」の選択理由を説明したが、陳訳と王訳の訳文は原作のあとがきを全て削除した。しかし、王訳は訳文の最初の訳者の話で「窓旁一伙」という言葉を通じて、原作の書名の選択理由を説明した。朱訳と趙訳は原作に従ってあとがきを訳した。未訳は一部分を削除した、削除された内容がちょうど「窓ぎわ」の選択理由の部分が含まれている。

日本語俗語辞書¹⁰⁾によると、窓際族とは、第一線を退き閑職に就く中高年サラリーマンのことである。1977年（昭和52年）6月の北海道新聞のコラムで窓際族の元になったとされる「窓際おじさん」という言葉が使われ、1978年の1月に、日本経済新聞が新年連載「ニッポン・生きる条件」で、OLの雑談中にあった言葉として窓際族を紹介している。20世紀80年代「窓際族」は日本で流行したばかりであるから、日本語の背景がない中国大陆の人にとって「窓際族」はよく知られている言葉ではなかったと考えられる。それゆえ、訳語の「窓辺」と「窓旁」を読んだ時、ただ窓の近く・窓のそばという意味だけを受け入れる可能性がある。朱訳、陳訳、趙訳は「窓ぎわ」についての説明がついているが、未訳と陳訳にはない。説明がなければ、80年代の読者にとって、「窓ぎわ」のマイナス意味を理解し難かった可能性が高いと考えられる。

「トットちゃん」については、未訳、王訳、趙訳ではそれぞれ「小豆豆」、「小蜜桃」、「小豆豆」と訳され、朱訳、陳訳では「小姑娘」、「阿彻」と訳された。原作の「トットちゃん」の発音と未訳、王訳、趙訳の「トットちゃん」に対する翻訳「豆豆 (dou 4 dou 4)¹¹⁾」「蜜桃 (tao 2 tao 2)」の発音が似ており、音訳したのだらうと考えられる。鐘 (2004)¹²⁾によると、台湾版のいくつかの訳本では「小豆豆」と訳され、前に「小」をつけるのは、「ちゃん」に対する翻訳であると指摘した。原作の「ちゃん」は親しみを込めて児童に用いる愛称だと言える。大陸でも子供の愛称として名前の前に「小」をつける場合が多い。未訳、陳訳、王訳、趙訳の「小」も「ちゃん」に対する翻訳だと考えられる。

また、初版の未訳と最新の趙訳が同じ言葉「小豆豆」を使ったのは、趙訳は未訳の翻訳を踏襲した可能性があるとも言えるだろう。朱訳、陳訳の「トットちゃん」に対する翻訳は、原本の内容によると、主人公のトットちゃんは女の子というだけでなく、著者の黒柳徹子の本人でもある。従って、朱訳、陳訳も原本の内容によって、それぞれ「小姑娘」という性別を代表する言葉と「阿彻」という著者の名前の「彻」を使用し、訳された。つまり、朱訳、陳訳は原作の内容を理解した上で訳されたと考えられる。

10) <http://zokugo-dict.com/3lma/madogiwazoku.htm>.

11) 「()」中のローマ字は中国語のピンインを表し、数字は中国語のアクセントを表している。

12) 鐘季儒「中国語『窓際のトットちゃん』語彙データの構築について—その4 訳本の諸問題—」(『国際シンポジウム比較語彙研究 VII』、語彙研究会、2004年)、55-63頁。

2.2 目次について

原作は61章あり、それぞれ小テーマをつけている。その小テーマに対して、各訳本の訳語は表2に示したようである。

表2¹³⁾

	黒1981	未1983	朱1983	陳1983	王1983	趙2003
第1章	初めての駅	第一次来到的车站	初到车站	车站	自由之丘车站	第一次来的车站
第10章	海のものとの山のもの	海味和山味	海里的东西山里的东西	山珍海味	海里的东西山里的东西	海的味道, 山的味道
第14章	もどしとけよ	送还原处	送回原处	找钱包	收拾好	放回原处
第20章	夏休みが始まった	暑假开始了	放暑假了	暑假	暑假开始了	暑假开始了
第26章	一生のお願い	一辈子的愿望	一生最大的愿望	两只小鸡	一生的愿望	一生的心愿
第30章	それからさあ	后来	然后嘛	后来嘛	演说	然后呢
第35章	手で話す	用手说话	用手讲话	哑语	用手说话	用手说话
第37章	マサオちゃん	小正男	正雄小朋友	朝鲜孩子	玛莎奥	正男
第50章	お見舞い	慰问	慰问	伤兵的悲哀	慰问	慰问
第51章	元気の皮	健康树皮	健康树皮	神奇的树皮	会看病的树	健康树皮
第53章	学芸会	文艺演出会	学习成绩汇报演出会	演出会	排戏	演出会

表2に示したように、61章を比較すると、未訳、朱訳、趙訳はほとんど原作の小テーマに基づいて一々直訳された。ただし、陳訳と王訳は他の三つと異なるところが何箇所かある。

陳訳に関して次の三点が異なる。第一は第1章、第20章をまとめて見れば、原作は「初めての駅」と「夏休みが始まった」であり、訳語は「车站」と「暑假」になっている。「初めて」、「始まった」を訳さず、簡潔に中心の言葉だけが訳された。第二は第14章、第26章、第35章、第37章、第50章、第51章を見ると、「もどしとけ」、「一生のお願い」、「手で話す」、「マサオちゃん」、「お見舞い」、「元気の皮」に対して、それぞれ「找钱包」、「两只小鸡」、「哑语」、「朝鲜孩子」、「伤兵的悲哀」、「神奇的树皮」と訳した。「一生のお願い」は、トットちゃんが親にお願いして鳥を買ってもらうことを中心としている。「手で話す」は、トットちゃんは電車で話している聴覚障害者と出あい、お互いに手で話した話である。「マサオちゃん」は、朝鮮の出身のマサオちゃんを中心とした出来事である。「お見舞い」は、トットちゃんが学校の代表として戦争で傷ついた軍人たちをお見舞いに行ったことである。「元気の皮」は、木の皮を通じ、人々は健康かどうか分かるようになる物語である。各訳語は小テーマだけを見れば、全く違う意味になってしまったが、各章の内容から言えば、誤訳ではないと言える。訳者は文書の内容に基づき、

13) 表2は目次の一部分である。

中心の言葉を抽出し、訳したのではないかと考えられる。第三は第10章の「海のもの」と山のもの」の訳語である。陳訳は「山珍海味」と訳した。中国語の「山珍海味」は確かに「海のもの」と山のもの」が含まれるが、食べ物が増沢という意味もある。原作の中で校長先生は子供たちの栄養のバランスを守るため、弁当に「海のもの」と山のもの」を用意してくださいと母親たちに求めた。従って、ここで「山珍海味」を使って訳されたことに対して、適当かどうかは詳しく検討しないが、違う意味になってしまう場合があると言えるだろう。

また王訳の第1章、第30章、第51章、第53章では、原作は「初めての駅」、「それからさあー」、「元気の皮」と「学芸会」に対して、それぞれ「自由之丘车站」、「演说」、「会看病的树」、「排戏」と訳され、陳訳の第二と同じく、小テーマの日本語と異なるが、誤訳と言えないと考えられる。訳者は文書の内容を理解した上で、内容の概ねに基づき、中心の言葉を抽出し、訳したのではないかと考えられる。一方、未訳、朱訳、趙訳は目次に対して原作対する忠実度が高く、主に逐語訳、あるいは直訳したことがわかった。

三 中国語の諸訳本の言語特徴

言語の特徴に関して、大きく文化記号、擬音擬態語、比喩、擬人の修飾方法を中心に、訳文の削除、誤音の個所に対する翻訳を検討し、各訳本の訳語の特徴の分析を試みたい。

3.1 文化記号の翻訳

文化記号という語を、本稿では異文化要素の固有名詞と日本文化特有の名詞を指す語として用いる。例えば名前、各祝日、飲食、慣用語、地名など日本の特別な文化習慣を表す言葉に対し、各訳者は読者にどう伝えているのかを考察したい¹⁴⁾。訳し方は、「意識、音訳、音訳+注、直訳、直訳+注、移植、移植+注」の7種類に分類する可能である。以下に人名、地名の翻訳と日本の文化的概念を表す普通名詞の翻訳に分けて説明する。

3.1.1 人名と地名の翻訳

人名と地名の翻訳は、原作では外来語で表記された言葉以外、日本語の漢字で表記されている言葉に対して、全て中国語の簡体字で訳された。また訳者は理解しにくいと考えられるところに詳しい説明をつけている。例えば、原作の「田園調布」に対して、未訳、朱訳、陳訳、王訳、趙訳はそれぞれ「田園调布」、「田園调布(移植)」、「田園调布(移植)」、「田園调布*(移植+注)¹⁵⁾」、「田園调布*(移植+注)」と訳した。

14) 中国語では「文化負載詞」といい、それに対応する日本語として、本稿では文化記号を用いる。

15) 「*」は訳者が訳文の下に注釈をつけたことを示している。また「()」の内容は訳し方である。王訳、趙訳の注釈の内容はそれぞれ「東京都的一条街名」と「是地名，在日本东京」である。

管見の限り、人名と地名は全9箇所である。注が一番多いのは趙訳であり、6箇所である。次に、王訳、陳訳と未訳であり、それぞれ5、3、1箇所ある。ただし、朱訳は一箇所もないとわかった。共通の訳し方として、ほとんど「移植+注」、あるいは移植のままになっている。日中両国で同形語が多く、その中に同形同義の言葉も少なくないため、ここで共用し、日本語のまま中国語に移植し、訳されたと言える。

3.1.2 日本の文化的概念を表す普通名詞の翻訳

日本の文化的概念を表す普通名詞の翻訳について、主に「移植、移植+注、直訳、直訳+注」になっている。意識があるが少ないと考えられる。例えば原の「佃煮」に対して、未訳、朱訳、陳訳、王訳、趙訳はそれぞれ「酱油加糖煮的小鱼小虾（直訳）」、「鱼、贝类、紫菜等海鲜制作的菜肴（直訳）」、「鱼啦，虾啦（直訳）」、「佃煮*（移植+注）¹⁶⁾」、「红烧海味（意識）」と訳した。

訳語全体を分析すると、「移植+注」は全39箇所、「移植」は16箇所、「直訳+注」14箇所、「直訳」は47箇所、意識は9箇所あり、訳していないところは5箇所ある。ほとんどは原作の言葉のまま中国語訳に移しているか、あるいは注をつける場合が多い。移植と直訳の占める割合が大きいとも言えよう。

各訳本の注の数から見ると、一番多いのは王訳の16箇所、その次に陳訳の14箇所、未訳の13箇所、趙訳の12箇所、最も少ないのは朱訳の2箇所である。また飲食に関する言葉では、食材の名前と調理法を組み合わせた訳語が多く見られる。中国の料理名は調理法を、日本の料理名は材料を重視するという傾向が多いため、訳語の中にも反映されている。

文化記号に関して、訳者は読者に日本特有の文化を伝えていくため、基本的に「直訳+注、移植+注」という方法で翻訳し、注を通じて詳しく説明した。また、「直訳、移植、意識」も使われている。未訳、陳訳、王訳、趙訳は一定数の注を通じて訳したが、朱訳の注は非常に少ないと言える。

3.2 擬音擬態語の翻訳

徐一平 (2010)¹⁷⁾によると、翻訳方法に関して、主に六つの面について言及した。まずは中国語で状態を表す AABB、ABB、AAB などのような言葉を訳すこと。また「～然（様子を表す）」のような形で訳されること。一般的な形容詞で訳されること。副詞で訳されること。動詞で訳されること。「一～」という形で訳されること。また林玉恵 (2009)¹⁸⁾によると、『窓際の

16) 「*」は訳者が訳文の下に注釈をつけたこと示している。また「()」の内容は訳し方である。王訳の注釈の内容は「用调味料煮的小鱼，海菜和贝类的小菜」である。

17) 徐一平等『日語拟声拟态词研究』（北京：学苑出版社、2010年）。

18) 林玉恵『『窓ぎわのトットちゃん』から見る擬音語・擬態語の中国語の問題点— ABAB 型の擬音語・擬態語を中心に—』（『語彙研究会（7）』、2009年）、20-29頁。

トットちゃん』の台湾版の訳本は、特に日本語のAABB型の擬音擬態語に対して、訳しかたの問題点を分析し、第一に訳されていない語が多数あると指摘した。そして同一の訳本で同一の語が何種類にも訳されることがあり、訳しかたの種類は多く、大きくAA型、AAB型、ABB型、AABB型、AABC型、ABAB型、ABAC型の7種類に分けられると指摘した。最後に誤訳が見られることをも提示した。

翻訳は訳者によって個人差が大きく、原作に基づき一々訳している場合もあり、一々訳していない場合も多くある。それとともに、訳者は訳す時に、原作の言葉のままではなく、読者が慣れている言葉や慣用語などに言い変えて訳す場合も多く見られ、誤訳や問題点を指摘することは困難であり、適切な訳しかたか否かを断定することは難しいと考えられる。そこで、本稿は日本語原作に基づいて、中国大陸の訳本にある擬態語と擬音語を抽出し、各訳本の訳語の問題点というより、訳す傾向、あるいは訳す特徴を考察したい。

3.2.1 擬態語の翻訳

中国語の擬態語の表示形式にはABB、ABAB、AA、AAB、BCAA、AABC、ABAC、AABBの8種類がある。例えば、表3の「一个个、眨巴眨巴、纷纷、眨眨眼、汗水琳琳、闪闪发光、拱来拱去、陆陆续续」のような訳語である。また無訳、四字熟語をも含めて考察する。上述した形の訳語に該当していない場合は、全て「その他」に分類する。例えば、表3に示している訳語の例1の「眨动着」、例3の「顾不上顺序呀、表达方法呀、没头没脑」、例7の「一闪眼」などの形である。言い換えれば、動詞フレーズ、普通形容詞、「一……就」、「……着」のような言葉は全部「その他」に分類する。

表3¹⁹⁾

	黒1981	未1983	朱1983	陳1983	王1983	趙2003
1	パチパチ	眨动着	眨了眨	眨眨眼	眨巴眨巴	眨了眨
2	キラキラ	闪闪发光	闪闪发光	闪闪发光	闪闪发光	闪闪发光
3	グチャグチャ	语无伦次	颠三倒四	顾不上什么顺序啦、讲话的方法啦	顾不上顺序呀、表达方法呀、没头没脑	说话的顺序、说话的方式、都有点乱七八糟
4	ゾロゾロ	三三两两	纷纷	一个个	叽哩咕嘈地（回到）	陆陆续续
5	ビッショリ	汗水琳琳	满身汗水	浑身是汗	浑身冒汗	满头大汗
6	ゴソゴソ	なし	咯吱咯吱	来回跑	咕咕容容地	拱来拱去的
7	チラリ	一闪眼	一眼就	一眼就	なし	一眼看到

擬態語に対して、様々な翻訳方法が見え、全137箇所を確認した。その中の27組の言葉は同じ言葉である。全部で95箇所あり、137箇所の大部分を占めている。残りの42箇所はそれぞれ異な

19) 表3は擬態語の翻訳の一部分であり、代表的な例としてあげている。

る擬態語である。

擬態語の翻訳状況から見ると、10種類に分けられる。全体から見れば訳本の共通点として、「その他」に属している言葉が一番多く、四字熟語も頻繁に使っている。また AABB、ABB、ABAB、AABC 型の訳語も多く見られる。ただし、AA、AAB、ABAC、BCAA の4種類は訳文に用いられている場合が少ない。

擬態語には、原作の同一の言葉が何回かに文書に出てくる場合も多く見られる。例えば、原作の「キラキラ(6回)」に対する翻訳は、未訳では「闪闪发光(5回)、闪着光辉(1回)」と訳され、朱訳が「闪闪发光(3回)、金灿灿的、闪光、光灿灿的」、陳訳が「闪闪发光(6回)、王訳が「闪闪发光(5回)、闪烁着光芒」、趙訳が「闪闪发光(5回)、闪闪地」と訳されている。

その中で「キョロキョロ」は8回、「ツルツル」は7回、「キラキラ」は6回、「ピッショリ」は6回使われた。また使用回数が4回以上の語は、「ツルツル」、「キラキラ」、「ピリピリ」、「キョロキョロ」、「ゾロゾロ」、「ピッショリ」、「ネチャネチャ」、「ニコニコ」、「ブラブラ」がある。二回以上の語も多くある。

筆者は翻訳状況の調査および数字統計を行い、文書に何回か出てくる言葉は、全39箇所あり、同一の訳本で同一の語が何種類にも訳されている。同一語であっても、続けて最初に訳された語を使用するのではなく、フレーズ、四字熟語、普通の形容詞など多くの訳しかたで訳され、訳語は多種多様と言える。また全ての訳本の共通点として、四字熟語が一番多く、その次は「その他」であり、また ABB、ABAB、AABB 型の訳語であり、AA、AAB、ABAC、BCAA と AABC 型の訳語が少ない。無訳は全24箇所あり、最も多いのは王訳であり、その次は未訳である。ほかの訳本にはあるが、少ない。

3.2.2 擬音語の翻訳

擬音語では、訳語の表示形式は大きく ABB、ABAB、A・AA・AAA・AAAA、AABC、AABB の五種類に分けることができる。例えば、表4の「喀嚓嚓、咔嚓咔嚓、哈、嘿嘿、嘻嘻嘻」などのような訳語である。また無訳、四字熟語もある。上述した形の訳語に該当していない場合は、全て「その他」に分類する。「その他」に分類している語、例えば、以下の例1、例3、例4の「咯当、叭哒、啪哒、吧嗒、怕嗒」、「拖拉着、往里吸、吸回去」および「大声说着话」のような訳語である。つまり、音や声を真似する動作の描写や、直接中国語に音を体表できる言葉で簡単に組み合わせた言葉などを「その他」に分類した。

表 4²⁰⁾

	黒1981	未1983	朱1983	陳1983	王1983	趙2003
1	パタンー	咯当	叭哒	啪哒	吧嗒	怕嗒
2	チヨキチヨキ	咔嚓咔嚓	咔嚓咔嚓	咔嚓咔嚓	喀嚓喀嚓	喀嚓喀嚓地
3	ズルズル	拖拉着	啞啦、啞啦	往里吸	吸回去	刺溜刺溜地
4	キイキイ	说说笑笑	喊	又说又笑	叽叽喳喳	大声说着话
5	イヒイヒイヒイヒ	嘻嘻嘻嘻	嘻嘻地笑	嘿、嘿、嘿地	嘿嘿地	嘿嘿嘿嘿地
6	ガサガサ	喀嚓嚓	咯吱咯吱的	沙沙拉拉的	干巴巴的	咯吱咯吱地

表4に示したように、擬音語は全62箇所を確認した。その中に10組の言葉は同じ言葉であり、全23箇所がある。残りの39箇所はそれぞれ異なる擬音語である。

擬音語の全体の翻訳状況から得た数値を分析すると、どんな訳語を選択するかの根拠についてここでは考えずに、どのような訳語の形式を選択したのかを見ると、訳者はA・AA・AAA・AAAA、ABABとAABB型の訳語を多く使っていた。擬態語と大きな相違点は四字熟語の使用である。擬態語は四字熟語と「その他」に属している言葉を多く使用した。擬音語は「その他」に属している言葉がいくつかあったが、四字熟語はただ5箇所しかない。無訳に関して、陳訳は11箇所あり、最も多いと言える。最も少ないのは朱訳であり、2箇所しかない。ほかの訳本で無訳があるが、王訳と陳訳と比べて、目立たないと言える。

擬音語は擬態語と同じ、原作に同一の言葉が何通りかに翻訳された場合も多い。例えば、原作の「カタカタ（2回）」に対する翻訳は、未訳が「喀哒喀哒（2回）」、朱訳が「哗啦哗啦（2回）」、陳訳が「啪哒啪哒（2回）」、王訳が「哗啦哗啦、喀哒喀哒」、趙訳が「哗啦哗啦（2回）」である。

擬音語の全体の翻訳状況から得た数値を分析すると、訳語の形式の選択は擬態語と異なる。同じ言葉に対して、異なる複数の言葉をしているが、形は似ている。A・AA・AAA・AAAA、ABABとAABB型の訳語を多く使っていた。これは五つの訳本の共通点と考える。

3.3 比喩と擬人化の翻訳

3.3.1 擬人化に関して

擬人化は9箇所ある。そのうち例1、例3は訳本では擬人化にしていなかったところである。例2は原作がもともと擬人化にしているところであるが、訳本は擬人化せずに訳された。これについて以下の三つの例をあげる。

20) 表4は擬音語の翻訳一部分である。

例1 黒柳「お星さま」

未訳、朱訳、陳訳、王訳、趙訳はいずれも「星星」と訳した。

例2 黒柳「そして、その夜、たくさんの星と、月の光は、講堂を包むように、いつまでも、光っていたのだった。」

未訳「那天夜里，好象有许多许多的星星和月光笼罩着礼堂，永远闪烁着光芒。」

朱訳「而且天公作美，这天夜里始终群星闪烁，明月争辉，好象把礼堂抱了怀里似的。」

陳訳「那天夜晚，月光皎洁，繁星满天。小小的礼堂浴在柔和如水的月光下。」

王訳「那天晚上，星光和月光就象拥抱着礼堂似的，一直在闪闪烁烁。」

趙訳「那天晚上，天上繁星闪耀，月光如水，温柔地包裹着礼堂，那光辉仿佛永远地闪耀着。」

例3 黒柳「チューリップも、背伸びをするように茎を伸ばし、桜の蕾は、まるで“用意” トン!!の合図を待っているような恰好で、そよ風に揺られていた。」

未訳「郁金香不甘示弱地伸展着懒腰；含苞欲放的樱花花蕾仿佛在等候着“预备——跑！”的信号，微风伴奏，婆娑起舞。」

朱訳「郁金香也长高了，仿佛在伸展着腰肢，樱树上含苞欲放的花蕾则正在微风中翩翩起舞，那姿态就好像在运动会上等待着起跑的命令。」

陳訳「郁金香也象逞强似的舒展着茎叶。樱花含苞待放，在微风中轻轻地摆动。」

王訳「郁金香象伸腰似的舒展着花茎，樱花的花蕾放佛等着发令枪“预备，砰”的声音似的。」

趙訳「郁金香舒展开长长的茎，像是要长个头似的，樱花的花苞在轻风中摇曳，放佛在等待着“准备——开始”的信号，好一齐开放。」

例1は「お星さま」に対して、五つの訳本は全て「星星」に訳した。日本語の「さま」は人に対する尊称であり、全ての訳本は「さま」が、訳されていない。中国語の場合、「太陽、月亮」を指す時に、よく「太阳公公、月亮姐姐」が使われる。「星」を指す場合に、星がキラキラしている動作を描写する時によく擬人化にしているが、単に「星」を指す時に、上述した「太陽公公、月亮姐姐」のように「公公、姐姐」のような人を指す言葉と一緒に使われる場合が少ない。これが、全ての訳本が「星星」と訳した要因だと考えられる。そして、例3は陳訳が「桜の蕾はそよ風に揺られていた」だけを訳したが、「まるで用意トンの合図を待っているような恰好で」の擬人化のところは、訳していない。他の四つはほぼ原作と同じ、擬人化にして訳された。

例2は原作では特に擬人化にしていないが、訳本で擬人化にしているところである。例2の「講堂を包むように」は、原作は星と月の光は講堂にさしている自然現象に、光が講堂を包むような様子を描写している。未訳と趙訳はそれぞれ「笼罩着礼堂」、「包裹着礼堂」のように訳したが、原作の「包む」という動作に対し、「笼罩着」、「包裹着」という普通の動作を表す言葉で

訳した。ただし、陳訳、王訳、趙訳はそれぞれ「好象把礼堂抱在了怀里似的」、「小小的礼堂沐浴在柔和如水的月光下」、「就象拥抱着礼堂似的」に訳した。「包む」に対し、「抱在了怀里」、「沐浴在」、「拥抱着」のように擬人化にして訳した。陳訳と趙訳は「抱く」というような人の動作を表す言葉で、王訳は「沐浴」という人の動作を表す言葉を使った。

一方、他の6箇所は全部原作が擬人化にしているとともに、五つの訳本も原作のまま擬人化にして訳したところである。言葉の組み合わせが異なるが、以上の四つの例のように大きな違いがあるとは言えない。

原作の擬人化は全ての9箇所のうち、訳文に擬人化していないところは、未訳は3箇所、陳訳と趙訳はそれぞれ2箇所、朱訳と王訳はそれぞれ1箇所ある。また、原作は擬人化していないが、訳本が擬人化にして訳されることに関して、未訳と趙訳はいずれか1箇所ある。他の三つはない。

3.3.2 比喩に関して

原作の比喩修飾は13箇所ある。そのうち、例1以外、ほかは全て原作がもともと比喩を使っているところである。そして、例1、例2と例3は訳本に比喩にして訳していない場合がある。それ以外の五つの訳本は全部原作に基づいて比喩にして訳した。

例1 黒柳「そして、道を飛び跳ねながら、なにかを早口でしゃべってるトットちゃんを見た。」

未訳「望着在路上蹦蹦跳跳，小嘴巴不停的在讲些什么的小豆豆。」

朱訳「她看了看冬冬。冬冬正在一边在路上蹦跳一边嘴里像机关枪似的说着什么。」

陳訳「阿彻可不知道妈妈的心事。她在路上蹦蹦跳跳的走着，嘴里不知说着什么口令。」

王訳「她看着蹦蹦跳跳，唠唠叨叨的桃桃。」

趙訳「她看看小豆豆，小豆豆在路上蹦蹦跳跳，嘴里还自言自语的说着么。」

例2 黒柳「ほとんど、全身、ねずみ色の壁みたいになってるトットちゃん、ママはいつた。」

未訳「妈妈看看全身象灰色小墙的豆豆说。」

朱訳「面对几乎浑身都仿佛成了灰色墙壁的冬冬，妈妈说。」

陳訳「妈妈对全身沾满了灰色泥浆的阿彻说。」

王訳「妈妈对全身都是灰泥的桃桃说。」

趙訳「小豆豆全身上下都是灰色的墙泥，仿佛成了一堵墙壁，妈妈说：」

例3 黒柳「チューリップも、背伸びをするように茎を伸ばし、桜の蕾は、まるで“用意”トン!!の合図を待っているような恰好で、そよ風に揺られていた。」

未訳「郁金香不甘示弱地伸展着懒腰；含苞欲放的樱花花蕾仿佛在等候着“预备——跑！”的信号，微风伴奏，婆娑起舞。」

朱訳「郁金香也长高了，仿佛在伸展着腰肢，樱树上含苞欲放的花蕾则正在微风中翩翩起舞，那姿态就好像在运动会上等待着起跑的命令。」

陳訳「郁金香也象逞强似的舒展着茎叶。樱花含苞待放，在微风中轻轻摆动。」

王訳「郁金香象伸腰似的舒展着花茎，樱花的花蕾放佛等着发令枪“预备，砰”的声音似的。」

趙訳「郁金香舒展开长长的茎，像是要长个头似的，樱花的花苞在轻风中摇曳，放佛在等待着“准备一开始”的信号，好一齐开放。」

例4 黒柳「放課後、トットちゃんのクラスの子は、みんな、弾丸のように、家に帰ってしまった。」

未訳「放学后，豆豆班里的孩子们象子弹出了枪膛一样跑回家去。」

朱訳「放学后，冬冬班里的孩子们都飞也似地往家里跑回去了。」

陳訳「一放学，阿彻他们就象出了膛的子弹似的，一溜烟地往家跑。」

王訳「放学后，桃桃班的孩子们象离弦的箭一样，便一溜烟似地跑回去。」

趙訳「课后，小豆豆班上的孩子们一个个像是出了锐的炮弹一样，向家里冲去。」

例1は原作が比喩の修飾を使っていないが、朱訳と陳訳は比喩を使って翻訳した。原作の「なにかを早口でしゃべってる」に対して、朱訳と陳訳はそれぞれ「像机关枪似的说着什么」、「不知说着什么绕口令」と訳した。「机关枪」にしても、「绕口令」にしても全部話すスピードの速さを強調することができる。未訳、王訳と趙訳はそれぞれ「不停的在讲些什么」、「唠唠叨叨的」、「自言自语的说着什么」のように人が話す様子を一般的な言葉で訳した。

また例2、例3は原作ではもともと比喩の修飾を使用しているが、ある訳文では比喩で扱っていないところである。例2は「全身、ねずみ色の壁みたいになっているトットちゃん」に対して、陳訳と王訳は「全身沾满了灰色泥浆的阿彻」、「全身都是灰泥的桃桃」と訳した。ただ事実を説明していたが、比喩を使っていない。ただし、未訳、朱訳と王訳はそれぞれ「全身象灰色小墙的豆豆」、「浑身都仿佛成了灰色墙壁的冬冬」、「全身上下都是灰色的墙泥、仿佛成了一堵墙壁」と訳した。言葉遣いが異なるが、全て比喩を通じて翻訳し、意味も変わっていないと言える。そして例3は、陳訳が「桜の蕾はそよ風に揺られていた」だけを訳したが、「まるで“用意”ドン合図を待っているような格好で」に対して、訳していない。他の四つはほぼ原作と同じで、比喩で訳しており、喩体も一緒であるといえよう。

一方、例1、例2と例3以外は原作のまま比喩を通じて訳した。しかし、その中の例4は他の例と異なるところがある。例4は原作の「弾丸のように」に対して、朱訳と王訳はそれぞれ「都飞也似地」、「象离弦的箭一样」のように訳した。原作と同じで比喩を使って子供が家に帰る

スピードの速さを表しているが、「飛」と「离弦的箭」は原作の「弾丸」から外れている。一方、未訳、陳訳と趙訳は「象子弹出了枪膛」、「象出了膛的子弹似的」、「像是出了锐的炮弹一样」と訳した。それぞれ言葉遣いは異なるが、喩体と喩義はほぼ原作と一緒にある。上述したこと以外、他の比喩文では、喩体と喩義も原作とほぼ一致していることが明らかだと言える。

3.4 削除、誤音について

何箇所か削除と誤音もあり、ここでまとめて取り上げたい。

削除は、五つの訳本の中で二箇所しかないとわかった。陳訳はリトミックの歴史に関する話、王訳はトイレの汲み取り口から落とした話を削除した。削除された内容は、文章の理解にとって大きな影響を与えるとは言えず、訳者が見落としたのではないかと考えられる。

表 5

	黒1981	未1983	朱1983	陳1983	王1983	趙2003
1	オシベ/アカンベ	雄蕊/雌蕊	雄蕊/雌蕊	雄蕊/雌蕊	雄蕊/吓人玩* ²¹⁾	雄蕊/红眼睛*
2	徹子/テッコちゃん/トットちゃん	彻子/彻子/小豆豆	彻子/小彻子/冬冬	彻子/彻子/阿彻	彻子/彻子/小桃桃	彻子/小淘淘/小豆豆
3	石鹸のあぶく/ちえんけんのあぶけ	肥皂泡/吸皂泡	肥皂泡/飞勺泡	肥皂泡/肥早抱	肥皂泡/背着跑	肥皂泡/肥叫泡
4	看護婦 (gofu) ²²⁾ さん/かنگごく (goku) さん	护士/傅士 (fushi)	护士/富西 (fuxi)	护士/富士 (fushi)	护士/裤士 (kushi)	护士/父士 (fushi)

表5は子供の誤音に対する、各訳者の翻訳である。全部で四箇所ある。例1には未訳、朱訳と陳訳は全て「アカンベ」を省略し、「雄蕊」を使った。王訳と趙訳それぞれ「アカンベ」を「吓人玩」、「红眼睛」と訳した、注釈もつけている。

例2は原作では「ここに日本語の三つの呼び名を書く」という3つの主人公を表す呼び名が用いられているが、それぞれ朱訳では「彻子、小彻子、冬冬」と趙訳では「彻子、小淘淘、小豆豆」と訳されている。しかし他の三つの訳文は「徹子」と「テッコちゃん」の翻訳に関し、工夫しておらず、全部「彻子」と訳した。

例3と例4は、林(2006)²³⁾によると、「ちえんけんのあぶけ」、「かنگごくさん」は日本語に存在していないと指摘した。そのゆえ、「ちえんけんのあぶけ」を翻訳した時にきちんと対応で

21) 「*」は訳者が訳文の下に注釈をつけたマークである。王訳、趙訳の注釈の内容はそれぞれに「日语中雄蕊和吓人玩的发音近似。」と「日语中雌蕊和红眼睛这三个词的尾音相同，所以这个孩子有此疑问。」である。

22) 「()」のローマ字は、筆者によって付けたもの、発音を表している。

23) 林玉恵「中国語のコード付けの基準と手順—中国語の『窓際のトットちゃん』を例として—」(『国際シンポジウム比較語彙研究X』、語彙研究会、2006年)、29-40頁。

きる中国語もないと考えられる。未訳、朱訳、陳訳、王訳、趙訳はそれぞれ「吸皂泡」、「飞勺泡」、「肥早抱」、「背着跑」、「肥叫泡」と訳した。訳語の「吸皂泡」、「飞勺泡」、「肥早抱」、「肥叫泡」は中国語に実在の意味を表す言葉として存在していない。従って、原作のように存在していない言葉で訳したと解釈できる。ただし、王訳は「背着跑」を選んで訳した。「背着跑」は中国語に実在意味がある言葉であり、原作とは異なる性質の言葉を使って訳したと言えるだろう。

そして「看護婦 (fu) さん」に対して、「婦 (fu)」を誤って発音し、「く (ku)」になった。全ての訳本は正確に「护士 (hushi)」を訳すと同時に、未訳、朱訳、陳訳、趙訳はそれぞれに誤音の言葉に「傅士 (fushi)」、「富西 (fuxi)」、「富士 (fushi)」、「父士 (fushi)」と当てた。一方、王訳は「褲士 (kushi)」と訳した。ピンインから見ると、王訳は誤音になった「く (ku)」の発音に着目したと言えるだろう。しかし、ほかの三つは全て、「婦 (fu)」の発音から訳されたのではないかと考えられる。

おわりに

本稿では先行研究に基づき、中国大陸における『窓ぎわのトットちゃん』の訳本の比較研究を行なった。特に文化記号、擬音擬態語、比喩、擬人の修飾方法を中心に、誤音、訳文の削除を考察した。その結果は、主に訳本と原作の間の比較及び五つの訳本の間での対比に分けることができる。

五つの訳本と原作の差異には、「あとがき」の有無、目次（小テーマ）の翻訳、擬人比喩の修飾に忠実かどうか、原作の本文の削除及び擬音擬態語の訳し方に集中していると考えられる。原作と比べて大きな違いがあるところに対して、主に無訳、削除及び目次の翻訳に集中している。五つの訳本のうち、無訳、削除が最も多いのは陳訳であり、王訳、未訳、趙訳と続き、朱訳は最も少ない。目次の小テーマの翻訳に関して、陳訳と王訳は大幅に違う意味の言葉を使っているが、実際に原作の本文を理解した上で意識したのである。一方、未訳、朱訳、趙訳は原作のまま直訳した。この点に注目すれば、朱訳、趙訳、未訳は原作への忠実度が高いとも言える。陳訳と王訳は削除、無訳が他の訳本より多くあり、原作に忠実である程度が他より高いとはいえない面があると考えられる。

訳本間の差異については、文化記号に注をつける状況、擬音擬態語の翻訳、誤音に集中している。上述のように、五つの訳本の間での対比では、注をつける場合が多いのは陳訳であり、日本的なものを読者に伝えたいと言う翻訳者の考えの現れであると言えるだろう。趙訳、王訳、未訳と朱訳の順に注が用いられている。擬音擬態語は、全部の訳本は訳語の選択状況が似ている。擬態語はほぼ四字熟語、「その他」、ABB、AABBに集中しているが、擬音語にはABB、A・AA・AAA・AAAAと「その他」の訳語が多く使われた。また、同一の語が同一の訳本に何種類かの訳語があるのに対し、何回かに出てくる言葉に対して、無訳の場合も多いとわかった。

現在の調査結果をまとめてみれば、朱訳は1983年の四つのうち注の有無、無訳、削除が一番少なく、発行量が一番多い訳本であり、その次は未訳である。従って、朱訳と未訳は1983年の四つのうち原作に忠実度が一番高い訳本ともいえ、読者層も広がっている可能性が高いと考えられる。一方、陳訳と王訳は原作に対して、意識があることから言うと、一定の文化基礎がある読者に向けて翻訳した可能性が高いと考えられる。2003年版の趙訳と1983年の朱訳とは同じように、原作に対して、ほぼ逐語訳された。原作に対する忠実度が高い訳本であり、読者層も広いとも言えるだろう。

『中国20世紀外国文学翻訳史』²⁴⁾によると、八、九十年代外国文学の翻訳の選択は多元化になり、翻訳熱のため、たくさんの訳者が登場した。八、九十年代は20世紀の他の時期と比べ、翻訳人材が一番多い時期だと言及した。また名作の重訳現象が多く、出版社は厳しい出版計画がなく、売れ行きが良い本を急いで翻訳する現象もよく発生したと指摘した。それゆえ、1983年に一気に四つの訳本が出されている状況になったのは、無論当時の翻訳者、出版社、あるいは読者などが原作の素晴らしさを認めていることを反映しているが、当時の中国の翻訳業界あるいは出版界の不整備もある程度関係している可能性があることも考慮に入れる必要があるだろう。一方、80年代の「売れ行きのいい本」に対する翻訳熱及び重訳の問題が、『窓際のトットちゃん』の訳本の多さ、訳し方の多様性及び同一の語の翻訳の多様性の要因とも言えるだろう。また中国翻訳業界あるいは出版業界は発展しつつあり、著作権意識を高めつつあることから、趙訳は現在の市場に唯一の訳本として流通し受け入れられ続けている要因のひとつだと考えられる。

24) 查明建、謝天振『中国20世紀外国文学翻訳史』（上、下巻、湖北教育出版社、2007年）。

